

令和4年度 地域ケア個別会議 実施結果

高齢者あんしん相談センター ひだまりの庭むさしの

日時及び場所	参加者	自立支援に資する討議内容
7月29日(金) 13:30～15:30  水谷公民館 多目的ルーム	介護支援専門員4名 サービス事業者3名 増進センター 1名 高齢者福祉課2名 栄養士 2名 社会福祉協議会 1名 高齢者あんしん相談センター 4名  計 17名	事例①《ケース概要》 80歳男性。要介護2。福祉用具貸与により特殊寝台を利用。妻と長女の3人暮らし。交通事故によりけがをしてしまい、依然通っていた麻雀クラブに通えなくなってしまった。生活の不活発さから認知機能も低下してきている。 《課題・検討内容・自立支援に向けて》 医療リハビリから介護保険のリハビリに切りまえる際にしっかりと日置次を行い目標設定などを行う。 リハビリの目標と機関を決め、できるだけ怪我をする前の生活に戻れるプランを立て、本人の意欲の維持向上を図る。  事例②《ケース概要》 69歳男性。要介護3。独居だが同じ集合住宅に元妻が住み、本人お世話をしている。週3回通所リハ、週1回訪問、福祉用具貸与による特殊寝台・手すり・車いす・歩行器を利用。糖尿病、脳梗塞の既往がある。違法薬物の後遺症があり、体に刺青を掘っている。 《課題・検討内容・自立支援に向けて》 体の入れ墨から、通所先での入浴ができない。元妻の支援がなければ生活が成り立たない。 腎機能が低下しないように食事や運動などの目標を設定し、本人の生きがいにつながるように関係者で連携していく必要がある。
11月28日 (月) 13:30～15:30  水谷公民館 多目的ホール	介護支援専門員4名 サービス事業者4名 歯科衛生士 1名 増進センター 1名 高齢者福祉課2名 高齢者あんしん相談センター 4名  計 16名	事例①《ケース概要》 69歳女性。要介護1。慢性腎不全、糖尿病の既往がある。夫と長女の三人暮らし。以前は通所介護を利用していたが、体がだるく通えないと現在は福祉用具貸与による手すり歩行器と自費の特殊寝台の利用。 《課題・検討内容・自立支援に向けて》 週3回の透析があり本人の体力的に活動の意欲や機会が低下している。 通所のサービスは本人としては負担が大きいと感じているため、訪問のリハビリなどを検討。 経済状況の確認はアセスメントが必要。  事例②《ケース概要》 73歳男性。要介護1。糖尿病、脂質異常症の既往。妻と二人暮らし。妻はパーキンソン病で歩行が出ず、室内で電動車イスを使用している。最近になり認知症の症状が出始め車をどこに止めたかわからなくなる、迷子になり家に帰ってこれないことがある。デイサービスが週に1回、訪問介護が週に2回、訪問看護が週に1回、社協の有償ボラを利用。 《課題・検討内容・自立支援に向けて》 清潔保持に難があり、入浴ができない、口腔ケアもできない、排泄の失敗があるがリハビリパンツの仕様は拒否する。 貯蓄があるが非課税世帯。キーパーソンもおらず先々に不安がある。二人の健康上のリスクを把握し、関係機関と協力していく。 姻族関係を確認し、入院や施設入所となったときの身元保証などについて前もて調整しておく。

<p>2月27日(月) 13:30~15:30</p> <p>水谷公民館多 目的ホール</p>	<p>介護支援専門員 6 名</p> <p>サービス事業者 6 名</p> <p>増進センター 1名 高齢者福祉課 2名 高齢者あんしん相 談センター 5名</p> <p>計 20名</p>	<p>事例①《ケース概要》 84歳女性。独居。要介護1。長男長女のかかわりあり。高血圧、不眠症、めまい症、手指振戦、左手骨折。福祉用具貸与による歩行器、訪問介護にて週に1回。買い物付き添いや入浴の見守りを受けている。 《課題・検討内容・自立支援に向けて》 依存的な部分や、パーソナリティに問題があり対応が難しい。 自立支援のとらえ方を本人と共有し、精神的な自立も踏まえてプランに取り込んではどうか。</p> <p>事例②《ケース概要》 74歳男性。要介護2。独居。脳梗塞、脳幹梗塞、糖尿病、左不全麻痺。長男次男遠方で電話連絡程度のかかわりしかない。週に4回のデイサービス、週に1回の訪問介護、福祉用具貸与により手すり設置を利用。 《課題・検討内容・自立支援に向けて》 杖歩行できているが、だんだんと距離が短くなってきている。外出の意欲はあるが体が追いつかない。 外出の目的があるので、リハビリが別のところで担保できるのであればセニアカーなどの移動手段を検討。 サービスに対してしっかりと目標を設定し、チームで連携し共有していくことが必要。</p>
---	---	---